

# 循環型技術研究会

～ 産学公連携の  
架け橋に ～

都産技研の技術研究会は、都内中小企業の技術者と都産技研職員によって構成される研究会です。課題解決や技術力向上、技術承継などを目的として活動しています。情報交換や相互連携をはじめ、検討会・発表会なども行っています。今回は、企業間の情報交換や、産学公連携による技術開発の場として活動している循環型技術研究会を紹介します。



産学公技術交流会「目からうろこ」講演会の様子

## ■循環型技術研究会のなりたち

研究会発足のきっかけは、25年以上前の工業技術センター時代まで遡ります。業界ニーズに基づく木材の屋外利用のための技術開発をテーマに、国研や大学、その他の外部機関もメンバーに含めた自主的な勉強会が始まりました。その後、対象を木材に限定することなく大きな視点から循環型社会を目指すという目的まで広げ、2002年に正式な研究会として発足しました。設立当初の調整には鶴田郁男氏、その後の充実した運営活動には降旗廣行氏を中心とした熱心な取り組みにより、幅広い技術分野の交流ができる会に発展しました。お二人には都産技研のエンジニアリングアドバイザーも務めていただき、研究会以外の中小企業の支援にも貢献していただきました。

## ■日頃の活動内容

現在の主な活動としては、会員間の交流に加え、産学公連携の架け橋となることを目的とした産学公技術交流会「目からうろこ」を毎年開催しています。交流会では、工学、医学、農学などさまざまな技術分野・業界で活躍されている講師を招いて異業種交流を行うことにより、新たな技術・事業の創出や課題解決を促進しています。本研究会のメンバーが一般社団法人山梨工業会東京支部の役員であったことをきっかけに、工業会との共同開催として会員以外の参加者も募ることで、技術分野や規模を拡大しています。近年は100名規模の参加者による活発な交流会となりました。2019年2月には「目からうろこ第15弾！15周年記念講演会」を開催し、大盛況のうちに終えることができました。

## ■交流会をきっかけに共同研究へ発展

2018年2月に開催した「目からうろこ第14弾！」の講演で紹介された都産技研の「中小企業のIoT化支援事業」がきっかけで、複数の参加企業に都産技研のIoT技術支援をご利用いただきました。その中で、研究会会員のDari K株式会社IoT公募型共同研究に採択され、「IoTを活用したカカオ豆需要予測システム開発」をスタートしました。開発し

たカカオ豆プロセッサ（店舗で短時間にチョコレートが製造できる機器）にIoT機能を付加して稼働状況を把握し、得られたデータからカカオニブ\*1の需要を予測して焙煎指示を出すことで、店舗で常に品質の高いチョコレートやドリンクを提供するしくみの開発を行っています。



採択されたIoT共同開発研究

\*1 カカオニブ カカオ豆の胚乳部分を発酵させ、焙煎後チップ状にしたもの。

## ■今後の展望

今後も産学公技術交流会「目からうろこ」の活動を軸に、ユニークで魅力的な情報を発信していくことで産学公連携の架け橋となる活動を継続していきます。2020年も2月に開催予定ですので、ご興味がある方はぜひご参加ください。

都産技研では技術研究会の活動を支援しています。

【団体数】計26団体 【2018年度の活動実績】19団体が活動、研究会開催数計129回、参加人数1,737名

【支援内容】共催セミナーの開催、各会の取り組みPR、関連技術の普及促進活動への協力

【参加方法】各技術研究会にお問い合わせください。

**お問い合わせ** 交流連携室〈本部〉 | TEL 03-5530-2134 <https://www.iri-tokyo.jp/site/jigyou/kenkyuukai.html>

